外濠市民塾
SOTOBORI SCHOOL FOR CITIZEN

第12回外濠市民塾 / 第1回オンラインレクチャー

1. 実施概要
2. レクチャー詳細
3. アンケート結果
4. 所感

2021.05.21(Fri)

1. 実施概要

実施要項

日時・会場

日時：2021年5月21日(金) 18:00～19:30

場所：ZOOM ミーティングによるオンライン開催、後日期間限定で動画公開

レクチャー概要

講師：東京理科大学教授　伊藤裕久先生

「”濠”で囲まれた日本の都市・・・外濠の原風景を探る」

主催

外濠市民塾実行委員会

参加状況

最大同時接続数：89 人

スタッフ・協力

外濠市民塾実行委員会

委　員　長	陣内秀信 (法政大学)
	福井恒明 (法政大学)
	郷田桃代 (東京理科大学)
	小松妙子 (法政大学)
	高道昌志 (東京都立大学)
	亀田和宏 (大日本印刷)
	廣田幸司 (大日本印刷)
	田崎渉 (電通 tempo)

運営協力

法政大学エコ地域デザイン研究センター

東京理科大学外濠及び神楽坂地域調査研究推進室

東京都立大学大学院都市政策科学域　外濠研究チーム

法政大学江戸東京研究センター

三輪田学園

日本大学理工学部まちづくり工学科歴史まちづくり研究室

中央大学理工学部都市環境学科河川・水文研究室

新宿区立四谷図書館

大日本印刷ソーシャルイノベーション研究所

電通 tempo

2. レクチャー詳細

時程

18:00 ～ 18:10	冒頭挨拶	高道昌志	先生 (東京都立大学教授)
		郷田桃代	先生 (東京理科大学教授)
18:10 ～ 19:30	講演	伊藤裕久	先生 (東京理科大学教授)

レクチャーの様子

講師：　伊藤裕久　先生 (東京理科大学教授)

レクチャーの様子 (城と町の分離)

レクチャーの要旨　「”濠”で囲まれた日本の都市・・・外濠の原風景を探る」

第12回外濠市民塾　2021年5月21日

「濠」で囲まれた日本の都市ー“外濠”の原景を探る

伊藤 裕久（東京理科大学工学部建築学科）

外濠通からみた旧牛込御門の石垣と外濠・土塁（西に移設されたJR飯田橋駅のプラットホーム）　2019年3月

江戸東京を 400 年に亘って「分節」してきた
“外濠”の都市的な意義を整理していく。

「城壁」で囲まれた都市…明太原城（中国山西省太原市晋源区）　15世紀

取り壊された城壁の再建と復元的都市再開発　2017年8月調査

城壁で囲まれた中国の都市の例。
破壊されていた城壁が復元されている。

「濠」で囲われた中国の都市　中国・蘇州Suzhou（江蘇省）

「城壁」で囲まれた都市（府城）の外側を「濠」が回る

蘇州2020年

蘇州1919年

濠で囲まれた外国の都市も存在する。
濠の内側に城壁が取り囲んでいる。

「濠」で囲われた日本の都市ー濠のネットワーク　旧城下町・柳川（福岡県）

日本では低湿地に限らず城下町が濠で囲まれており、
城壁よりも濠に囲まれた都市の方がなじみがある。

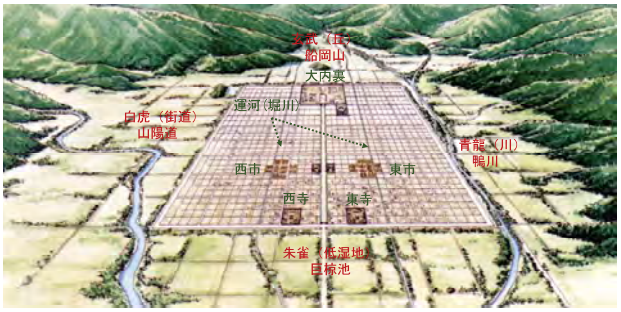
弥生時代の環濠集落　吉野ヶ里遺跡（佐賀県）　最盛期は3世紀頃

弥生時代後期には、外壕と内壕の二重の環濠が形成されている。

吉野ヶ里遺跡は環濠集落として有名である。

中国都城・長安を真似ながら「城壁」をもたない首都・平安京

都城とは⇒都：皇帝の住む場所＋城：都市を囲む城壁



平安京の立地と地域景観

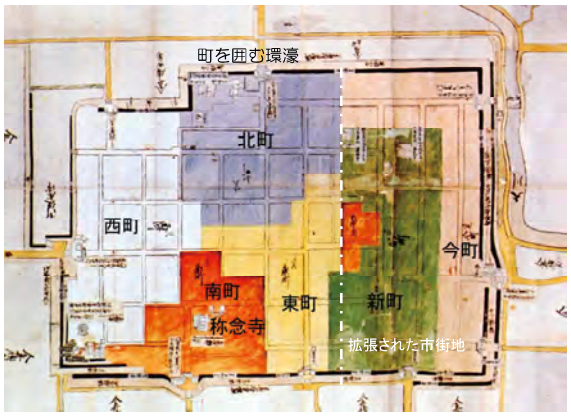
四神相応（風水思想）の立地条件／条坊グリッドと朱雀大路、朱雀大路を軸線とするシンメトリカルな施設配置（羅城門・寺院・市場・外交施設・宮殿）／城壁をもたない都市

中国を真似ながら「城壁」をもたない平安京。

「濠」で囲まれた中世末の計画都市…寺内町　今井町(奈良県)　　戦国期

環濠集落を母体として地域の経済的拠点として16世紀に計画的に建設された寺内町

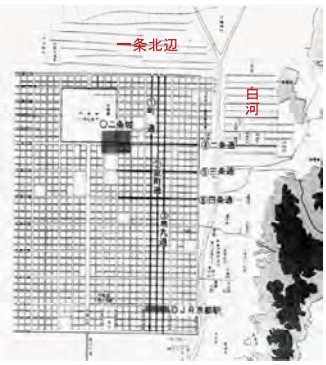
戦国時代になると自然発生的な環濠集落が
都市化をしていき、町場を計画的につくるようになる。



今井町絵図　「濠」の維持管理のために東西南北に四分割された町割

今井町においては、”濠”の管理のために
東西南北に町が分割されている。

中世京都における都市空間の変容



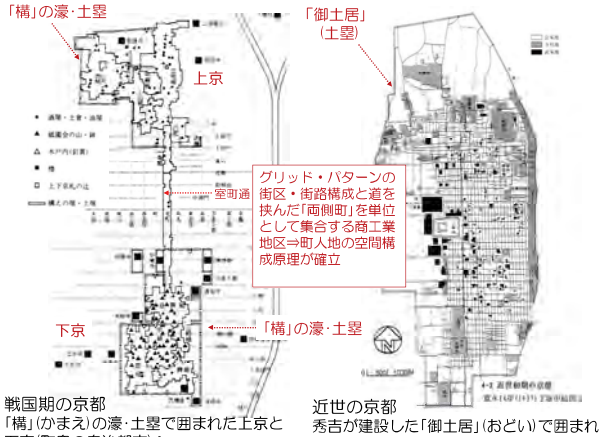
京全域図

天元五年(九八二年)　「池亭記」　慶滋保胤

予二十餘年以来、東西の二京を歴て見るに、西京は人家漸くに稀らにして、殆に幽墟に臨し。人は去ること有りて来ること無く、屋は壊るること有りて造ること無し。
(中　略)
東京四條以北、乾・艮の二方は、人々貴賤と無く、多く群聚する所なり。高き家は門を比べ甍を連ね、少きき屋は壁を隔て簷を接ぬ。東隣に火災有れば、西隣餘炎を免れず。南宅に盗賊有れば、北宅流矢避り難し。南院は貧しく北院は富めり。富める者は未だ必にも有らず。貧しき者は猶し恥有り。又勢家に近づき微身を容るる者は、屋破れたりと雖も築くことを得ず、垣壊れたりと雖も築くことを得ず。(以下略)

平安京における右京の衰退と左京の発展ー都市空間の偏心と洛外への拡張

平安時代後半には平安京の右京は衰退し、左京は発展して
左右対称ではなくなっていく。また、都市を拡張するとき
城壁がないことが有利にはたらいた。



戦国期の京都
「構」(かまえ)の濠・土塁で囲まれた上京と
下京(町衆の自治都市)へ

近世の京都
秀吉が建設した「御土居」(おどい)で囲まれ
た城下町へ

15 世紀には京都は焼けてしまう。
その後町衆が再建するのが上京と下京である。
構で都市を囲うようになり、秀吉の時代には
京都全体が御土居で囲まれた。

姫路城下町絵図　城郭を中心として武家地・町人地・寺社地と同心円状の
身分制ゾーニングをもちながら、都市全域を外濠で囲む「惣構型」城下町

京都を「城壁」で囲うのと同時に、
「惣構型」の城下町が構想されていく。

戦国期の城下町　城郭・家臣団集住域と町場の分離　　一乗谷遺跡(福井県)

足羽川と美濃街道・朝倉街道が集まる交通の要衝（毘沙門付近）に市場など経済的拠点となる町場が形成され、上・下木戸で区切られた朝倉館＋家臣団・直属商工業者の集住域である一乗谷とは分離されている。⇒城と町の分離

一乗谷に城がある一方で、毘沙門の辺りに
町があり、城と町が分離している。

織田信長による
岐阜城下町の建設

稲葉山城の麓の古屋敷に居館・家臣団を配置し、前面に町人地(1～33）を一体的に建設し、全体を「惣構」の土塁で囲んでいる。

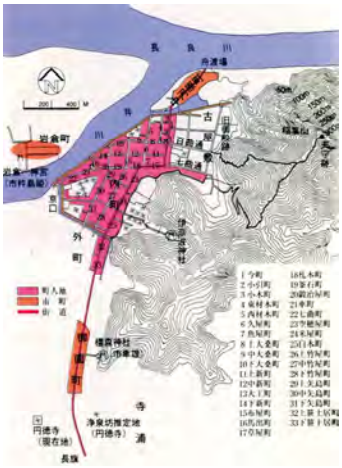
ただし、長良川沿いの中河原町や杉森神社門前の御園町などの市町は、いまだ惣構外に離れて立地していた。

城と町を一元化していく過渡期の状況を示しているのが岐阜城下町とみなすことができる。

どのようにして、織田信長は城・武家地に連続した町人地に多くの商工業者を吸引することに成功したのか。

⇓

「楽市令」という都市特権の付与



織田信長は城と町を一元化する前段階に携わり、楽市令によって商工業者を城下に集めた。

古代条里制を基盤として、中世に港町として発展した常楽寺などを取込みながら、安土城下町を形成しており、城と町を連結した一体的な空間構成がみられる。

しかし、都市計画ではグリッド状街路は方位を変えながら、部分にモザイク状に充填されている。

町割計画には、都市全体を統合するような一貫した構成原理は確認できず、濠での囲繞もみられない。

⇓

豊臣秀吉による豊臣系城下町の建設プロセスで、一体的なグリッドパターンの町割と、城郭や武家地だけでなく町人地を含む都市全体を外濠で囲んだ「惣構型」城下町が完成する。

安土の都市空間構成　推定復原図

信長の時代の安土の城下には一貫した構成原理がみられず、空間的に城と町を一体化はしていない。

豊臣系城下町　大和郡山(奈良県)　　天正19年(1585)

武家地と町人地の全体を「外濠」で囲む惣構＝「惣構型」城下町の完成

豊臣秀吉は一体的なグリッドパターンの町割と、都市全体を外濠で囲んだ「惣構型」城下町が完成する。

外濠が環状道路になってしまっているが、一部現在でも惣構が残っている。

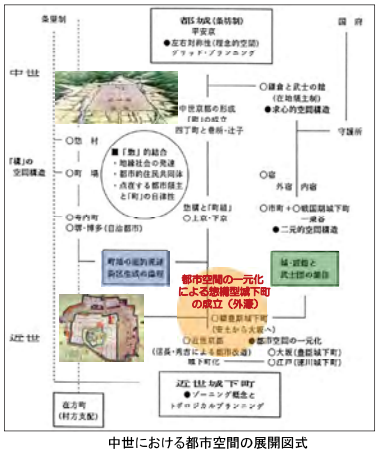
日本伝統都市の二類型
①古代の「都城（条坊制）」
城壁・濠をもたない都市
⇓
②近世の「城下町」
濠・土塁で囲まれた都市

城・居館と家臣団
の集住体
＋
町地（商工者）の面的発達
グリッドパターンと両側町
の集住体

都市空間の一元化
による城下町の成立

「都市・内・社会」の自立性
武家地、町人地、寺社地
都市の部分というよりは、
各々が独立した都市的存在

それらを統合したのが
都市全体を囲む外濠(惣構型)



中世における都市空間の展開図式

日本の伝統都市は古代の城壁・濠をもたない「都城」と近世の「城下町」の二類型ある。
町と城の一体化の象徴として濠がある。

郭の内外を厳然と区画し、防御的な役割を担って土地を物理的に隔てることが、運河や河川と異なる「濠」の重要な役割であった。

一方で“外濠”は、諸藩の大名屋敷を含む特殊な武家地と町人地・寺社地を統合することで達成された徳川家康がもたらした平和な首都の象徴として、天下普請によって建設されるべきものであった。

急速に都市域を拡大した江戸では“外濠”の完成前にすでに“外濠”の外側に大名屋敷や寺院群が配置され、郭外へと城下町が展開した。

神楽坂では、酒井家下屋敷を中心として通・横寺町、大縄地・組屋敷、町人地などが地形条件にあわせて一体的に配置され、入れ子になった小城下町な空間構成が実現している。それは単なる無秩序なスプロールではなく、周到に意図されていた可能性が高い。

“外濠”は、内と外を隔てるだけでなく、繋ぐことも想定された、首都・江戸の存続に不可欠な「分節」空間であったと言えよう。

寛永江戸全図　　寛永20年(1643)
惣構の“外濠”と枡形御門(見附)の完成

“外濠”は内と外を隔てるだけでなく、繋ぐことも想定された、首都・江戸の存続に不可欠な「分節」空間であったといえる。

参加者の声

■参加者から 34 件のアンケートを回収。回答の集計結果は以下の通りです。

1. 今回のプログラムを通じて感じた感想や、新たに学んだことなどがありましたら、教えてください。

・目から鱗、でした！
・すばらしかったです。
・濠のあり方について、新たな認識を持ちました。
・都市構造の発展経過について示唆を受けた。
・市民と外濠の関係性など興味深く聞かせていただけました。
・外濠のとらえ方について学ぶことができた。
・都市の発展史の中で濠の果たす役割、外国との違い等、興味深いものでした。
・壮大な歴史の背景、時間と人間の営みの中で自在に変化してきた都市の創造を妄想できて、大変楽しませていただきました。
・日本の都市の発展の歴史と江戸の外濠の特異性について理解できた。
・日本独特の濠で囲まれた都市の成り立ちと海外の城壁で囲まれた都市の比較が興味深かった。
・海外の城郭都市との違いが興味深かった。
・多様な有識者の方々の深い知見の共有は市井の私には得難き喜びです。ありきたりですがオンラインはコロナだから出来るコミュニティかと。
・濠が内と外を隔てるだけでなく、外と内を結びつけるものとしても捉えられるという考え方を新しく知ることができました。麹町が外濠の内外で繋がっていたのも関係あるのでしょうか。
・外濠開鑿の目的として軍事的視点だけでなく、都市史的視点から見ると、異なった視点から外濠の意義が見出せる可能性がある。
・濠の両義性という発想が新鮮でした。確かに壁とは違います。
・日本の城郭は中核都市の城のイメージなどから、堀で囲まれているものが普通であると思っていたが、東南アジアやヨーロッパなどの城では城壁に囲まれているのが一般的であり、改めて城郭というものを知るきっかけとなった。
・普通の会社員です。仕事は製造業でこのセミナーの内容は全く関係ありませんが、単純に興味本位で参加しました。普段では伺えることがない方々からのお話しを伺えて面白かったです。
・歴史的な観点から見た濠と都市の関係を知ることができました。日本において濠と都市は結びつきは強く、都市形成においてかなり大きな役割を担っていることが分かりました。
・外濠そのものに対してではありませんが、「何事も機能的にしすぎない（機能性を追求しすぎない）」というのが非常に印象に残りました。
・分節空間であったということに新たな発見がありました。それを想定してつくられていたと考えれるということは、現代の空間もそのような見方をしてみるとまた今までとは違った発見を得られるということが分かりました。
・東京の舟運と鉄道の連絡を調べており、外濠（＝東京の外濠）のお話と思っていましたが、先年大和郡山周辺の環濠集落を回っており、また、イタリア、パルマノバ、ベトナム、ビンなどの城郭都市も自転車で走った経験があり、興味深く拝聴しました。
・外濠が防御以外の目的でつくられているのではないかという視点は新鮮だった。
・濠を江戸時代の目線から考え、必ずしも合理的な理由から存在しているのではないことに新たな発見がありました。

・城と町の一体化が織豊期を通じて進んだこと、そしてそれを完成させたのが外濠であったこと、また外濠を都市を分断するものではなくて接合していくものと考えた方が都市論として興味深いのではないかという内容が、非常に示唆的でした。可能であるのなら、当時の江戸に住んでいた人々の記述からそのような考え方が見えるかどうかが分かれば、論を補強できるように思いました。ご講演の最後が駆け足だったこともあり、この点についての論理をもう少し詳しくお伺いしたかったです。
・深川生まれの下町育ちのロートルです。あまり深く考えていなかったテーマでしたが、目からウロコでした。水は命を育む大切な資源、これを両岸で共有する意味は、城壁と一緒にすることが大間違いとだと分かった。視覚的にスルーであることも。日本古来の建築が、視覚的に遮蔽されていても、音響的、嗅覚的にスルーなことを鑑み、距離が確保され、それが届かないなら、視覚もスルーにしてしまうのは、斬新なアイデアだと考えた。
・外濠やそのほかの場所の歴史などについて全く知らなかったので、全体を通して新鮮だった。外濠は空間的な隔たりと繋がり両方を持っているというのが勉強になる考え方だった。またそれに関連して、物事には常に多面性があるという考え方が一番学んだことだと思う。私自身が普段物事をそのように考えるとき常にそれを意識することはなかった。今後は多面性を考えることで、今までよりも深く考えたり新しいことを発見できるようになったりしていきたい。
・先生が最後に仰っていらした今の常識で考えず創造力を働かせるというお話にハッとしました。

2. 外濠市民塾について、ご意見・ご感想をお聞かせください。また、今後実行してほしい企画がありましたら教えてください。

・今後も頑張ってください。
・とても面白そうです。
・初めて参加させていただきました。地方住まいで、地方都市の外堀を研究している者です。外堀の研究をしているにも関わらず今まで恥ずかしながらこの市民塾の存在を知らず、今回は大変参考になりました。
・現代における外濠の意味を深く考えることで、次の時代にしっかり引き継いでいくべきだとの思いを強くしております。
・外濠市民塾に参加していないとなかなか関われない方々と関わったり、お話を聞かせてもらえたりするとても貴重な機会をたくさん作ってくれて本当に感謝しています。まだまだ未熟なので、外濠市民塾の活動を通してたくさん成長していきたいと考えています。新たな発想を考えたり、何かを分析したりしながら問題解決を図ったりより良い状況を生み出したりする、社会人としても必要なスキルが、私にはまだ足りないと感じているので、そのようなスキルが伸ばせるような取り組みにも積極的に参加していきたいと考えています。
・枠を越えての活動が楽しそうだと思いました。いろいろな発想でこれからの活動にも期待しています。
・分かりやすく説明していただき、興味がさらに増えました。
・外濠という空間的、歴史的存在を、「そういう視点から見る？！」というような意外性のある多面的な観点から炙り出していただけると楽しそう。
・やはり、実地見聞です。
・失われた外堀の遺構などを紹介する企画があれば嬉しいです。

・江戸の堀がどのように作られてきたのか図や絵を使って時系列で紹介してもらうことはできないでしょうか。
・オンラインは市民塾の活動領域を拡げるチャンスです。
・こういう勉強会はありがたいです。
・Zoom での開催だと気軽に参加できてよいと思います。
・外濠の維持管理は、大切な要素と思います。また、より良いものになるよう努力する必要があると思います。
・オンラインで 80 名強　次回はハイブリッドですね。
・オンラインは参加しやすいのでぜひお願いしたい。資料の配布が非常にありがたい。

3. あなたと外濠について教えてください (複数回答可)。

近くに住んでいる	3
近くに住んでいたことがある	0
近くに通勤・通学している	14
近くに通勤・通学したことがある	7
近くで事業を意図編んでいる	0
飲食・買い物・遊びなどで付近に来ることがある	9
今まであまり関わりが無かった	7
その他	2
(研究のテーマ・入試や学校見学で近くを通ったことがある)	

4. 外濠市民塾への参加は何回目ですか。

1 回目	64.7%
2 回目	11.8%
3 回目以上	23.5%

5. 外濠市民塾を何でお知りになりましたか (複数回答可)。

外濠市民塾ウェブサイト	4
Facebook	4
パンフレット	1
外濠市民塾関係者 (実行委員・スタッフ) から	17
知人 (関係者以外) から	7
その他	9
(法政大学江戸東京研究センターのメール、会社)	

6. 参加を決められた理由を教えて下さい (複数回答可)。

外濠に関心がある	18
外濠周辺地域に関心がある	12
プログラムに興味を盛った	15
その他 (城郭都市に関心があった・江戸っ子だから・様々な人と関われる)	3

7. 次回以降の外濠市民塾のイベントに参加してみたいと思いますか？

ぜひ参加したい	55.9%
予定が合えば参加したい	44.1%
まだ分からない	0%
参加しない	0%
無回答	0%

4. 所感

堀越義人 (法政大学)

初めての試みとなるオンラインレクチャーでしたが、80 人を超える方々が参加してくださいました。
外濠市民塾では毎年学生が入れ替わるため、新年度の知識の共有と更新が課題となっていました。今回コロナ渦で普及したオンライツールを活かして、このような会が開催できたことは新旧メンバーそれぞれにとって非常に学び多き会であったと思います。伊藤先生のお話の中では,「外濠の存在は単に内と外を隔てるだけでなく繋ぐことも想定された、“分節” 空間」という言葉には目からウロコでした。これまで、境界であると認識していたものに対して、「繋ぐ」という観点から外濠に着目するという視座をいただいたことで、外濠への視野を大きく広げることができました。外濠を使いこなすフェーズに足を踏み入れた我々外濠市民塾も、常に想像を膨らませ、現代の外濠に新たな価値を見出していけるように活動を展開させていきたいと強く思いました。

土井久海 (東京理科大学)

今回は外濠市民塾初めてのオンラインレクチャーということで、慣れないことも多くあったかと思いますが、直前の告知に関わらず多くの人に来て頂き大変有意義な時間になりました。オンライン形式だと普段外濠に深く関わっていない方や遠方にお住まいの方にも参加しやすいようで、次回のオンラインレクチャーを楽しみにする声も複数頂き大変喜ばしく感じました。またレクチャー内容につきましては、普段の授業より一層伊藤先生らしさ・伊藤先生のお考えが感じられるレクチャーで、大変感銘を受けました。特に境界というものがどんなものにおいても隔てるだけでなく繋ぐ装置としても考えられる・考えた方がいいというお話にははっとさせられ、新たな視点で物事を見ることができそうだと感じました。
今後も適宜オンラインを活用しつつ、外濠市民塾の活動を盛り上げていきたいと思います。

藤原諒也 (日本大学)

第 12 回外濠市民塾では、東京理科大学の伊藤裕久教授をお招きし、オンライン形式の講演会を開催しました。
「 “壕” で囲まれた日本の都市 ... 外濠 の原型を探る」をテーマに、壕が形成された経緯や外濠が担っていた役割の変遷などについてご説明していただき、改めて外濠についての理解を深めることができました。特に、「外濠は城内を守るために内と外を隔てるための役割だけではなく、内と外を繋ぐ分節空間としての役割も担っていたのではないか」、「外濠が守るために形成されたというように機能的に考えすぎないことが大切である」という見識には、私自身だけではなく多くの方々が感銘を受けていていたように感じました。また、講演会の告知が開催直前であったにもかかわらず 89 名という多くの方々に参加していただき、外濠というものの関心の高さを実感することができました。今回の講演会で学び得たことを活用し、外濠をより多角的に捉え今後の外濠市民塾の活動の発展に繋げていきたいと思います。

臼井志織 (東京都立大学)

私は今年度から外濠市民塾に参加することになりまだまだ外濠について知らないことばかりです。そんな中濠を通した都市史や海外の城壁、濠の事例との比較など流れに沿って全体的に濠について学ぶことができ、大変勉強になりました。濠と聞くと中と外を隔てて中を守るものというイメージを持っていましたが、そうしたイメージが覆される面白いお話でした。濠はずっと都市空間や人々の生活と共にあったものなので、形だけ保てば良いというのではなくそこに紐付く人々の暮らしや文化といったところまで視野を広げていきたいと感じました。これまでの外濠がどういう存在でどう考えられてきたかに思いを馳せると同時に、これからの私たちが外濠をどう使っていくかどういう空間として捉えていくかは、過去に縛られすぎることなく試しながら探っていってもいいのかなと思いました。